覆衾之上、

〔古事談二臣節〕一條攝政與朝成卿共競望參議之時、天曆多陳伊尹不中用之由、其後朝成參一條攝政第、爲望申大納言闕也、丞相良久不相逢、數刻之後適以面謁、朝成立申任大納言條々之理、丞相無所答、而曰、奉公之道尤可謂有興、昔競望同官時、多雖被訴訟、今度大納言事可在予心云々、朝成懷耻、成怒退出、乘車之時先投入笏、自中央破裂、其後攝政受病遂薨逝、是朝成生靈云々、今一條攝政子孫不入朝成舊宅三條西洞院也、所謂鬼殿歟　朝成卿爲一條攝政、發惡心之時、其足忽大ニ成テ不能著沓、仍足ノサキニ掛テ退云々、

〔空穗物語俊蔭二〕我はまことの孝の子なりけりとかたる、ちいさき子のふかき雪をわけて、あし手はえびのやうにて、はしりくるを見るに、いとかなしくて、なみだをながして、などかくさむきにいでゝありくぞ、かゝらざらんおもひでゝありけになければくるしうもあらず、

〔空穗物語藤原の君〕こゝは大將殿、あて宮いまみやものまゐる、すのこに侍從の君とのごもれり、ごたちすのうちにゐて物いふ、ゑゞう松の枝をりてもち給へり、やがて、あて宮にふみ奉りて、しずりをしてなく、君だちふたどころ、兵衞の君などゐて、人の御返聞えたり、

〔源氏物語四夕顏〕との〇二條院のうちの人、あしをそらに思まどふ、うちより御つかひあめのあしよりも、げに玄げし、おぼしなげきおはしますをき、給ふに、いとかたじけなくて、せめてつよく覺しなる、

〔源氏物語九葵〕わが御かたにわたり給て、中將の君といふに、御あしなどまゐりすさびて、おほとのごもりぬ、

〔太平記五〕大塔宮熊野落事

大塔宮二品親王ハ、〇護中略、眞、般若寺ヲ御出在テ、熊野ノ方ヘゾ落サセ給ケル、〇中略數日ノ間、斯ル嶮